

宮川水系河川整備基本方針の変更について ＜参考資料＞

令和7年9月25日

国土交通省 水管理・国土保全局

①流域の概要

一級水系指定の経緯

- 昭和49年7月洪水(七夕災害)を契機に、昭和50年に全国で最後の1級河川として指定。
- 昭和51年4月に工事实施基本計画を策定(基本高水流量8,400m³/s 計画高水流量7,600m³/s(岩出))。
- 昭和51年度に制度が創設された「直轄河川激甚災害対策特別緊急事業(激特事業)」の最初の適用を受けた。

昭和49年7月洪水(七夕災害)

- 勢田川の流下能力不足と合わせ支川からの内水氾濫で 伊勢市の大半が浸水。
- この災害が契機となり昭和50年に一級河川に指定された。



七夕災害の浸水区域図

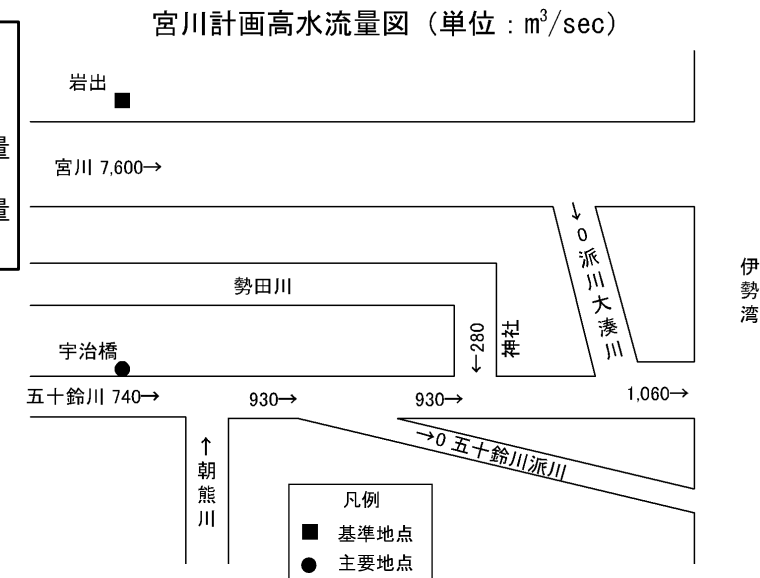


被害内容	
浸水面積	3,051ha
全半壊	1戸
床上浸水	3,224戸
床下浸水	10,924戸

工事实施基本計画 (S51.4)

【計画諸元】

基準地点：岩出
計画規模：S13.8洪水
基本高水のピーク流量
：8,400m³/s
計画高水のピーク流量
：7,600m³/s



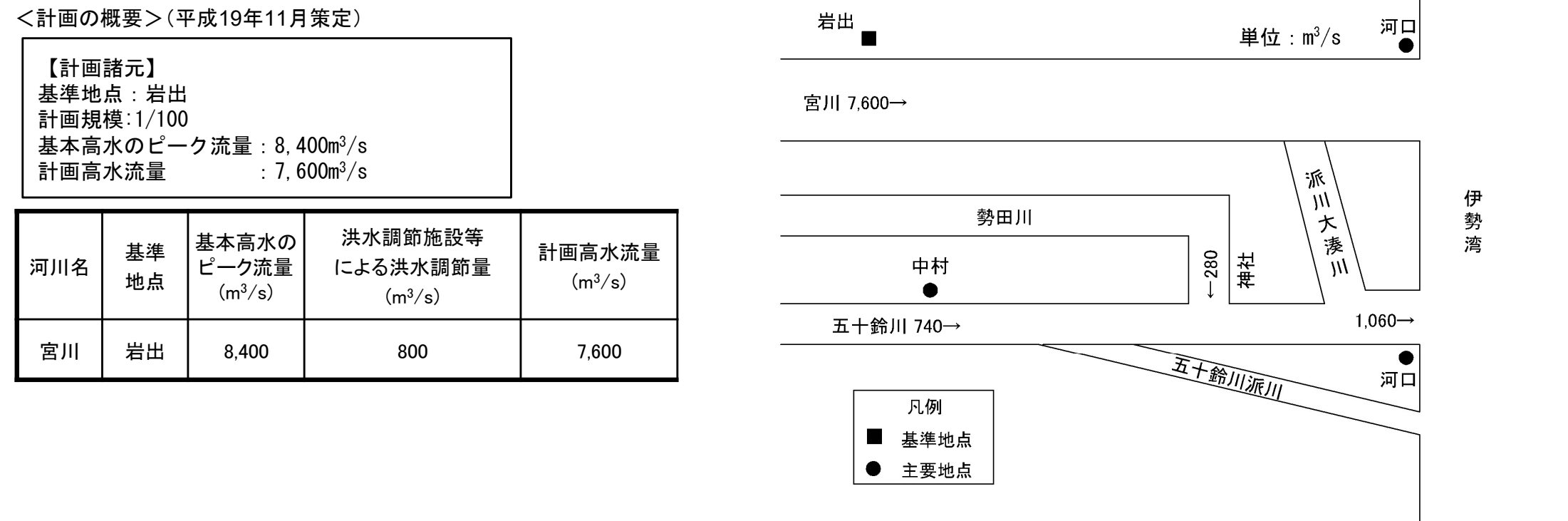
激特事業 (S51～S57)

- 勢田川において河道拡幅、河床掘削、築堤、勢田川防潮水門・排水機場の整備を実施。総事業費約185億円。

○ 河床掘削：1.0～1.5m掘り下げ ○ 河道拡幅：10～15m(3.4k～6.0k区間)



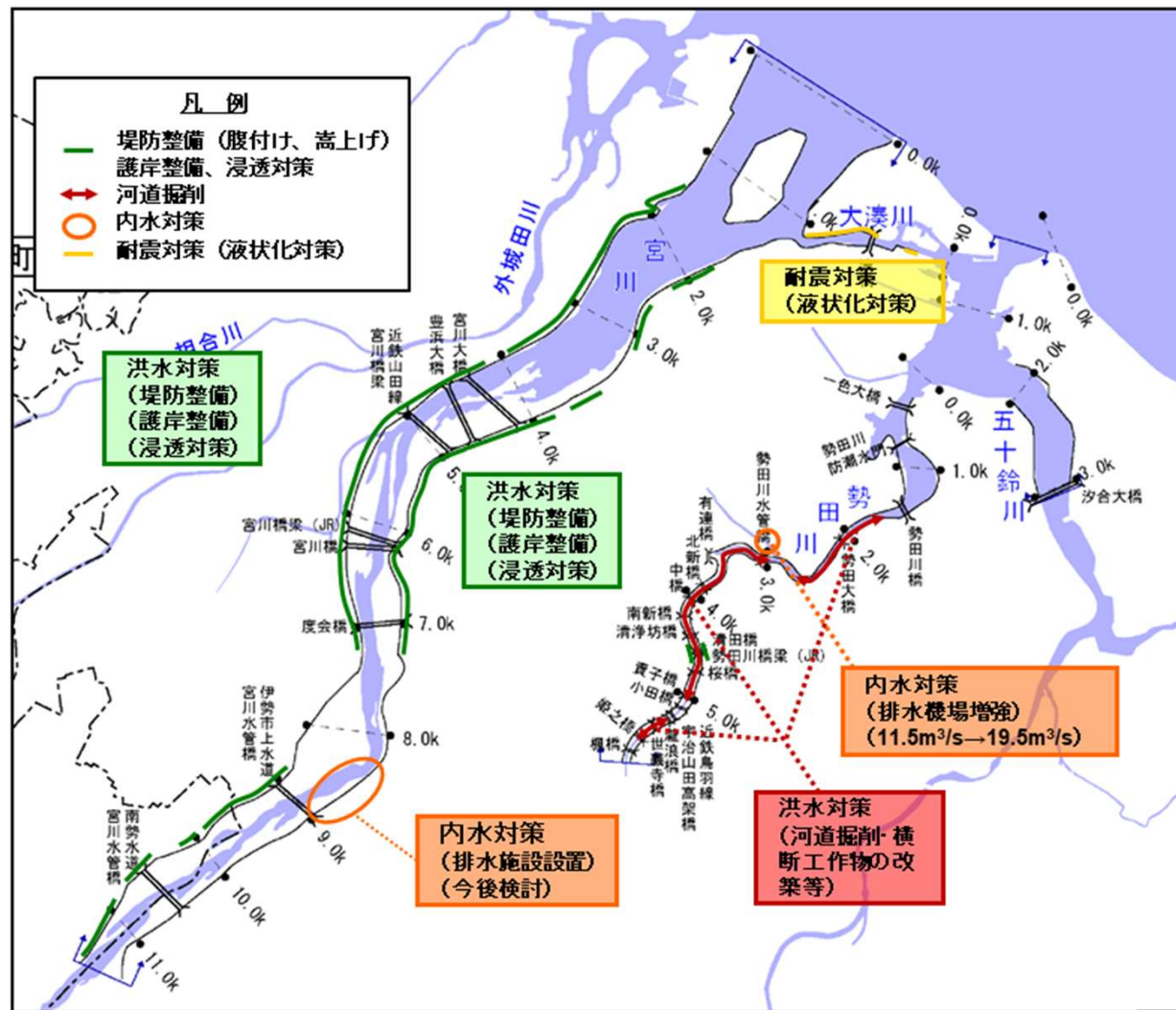
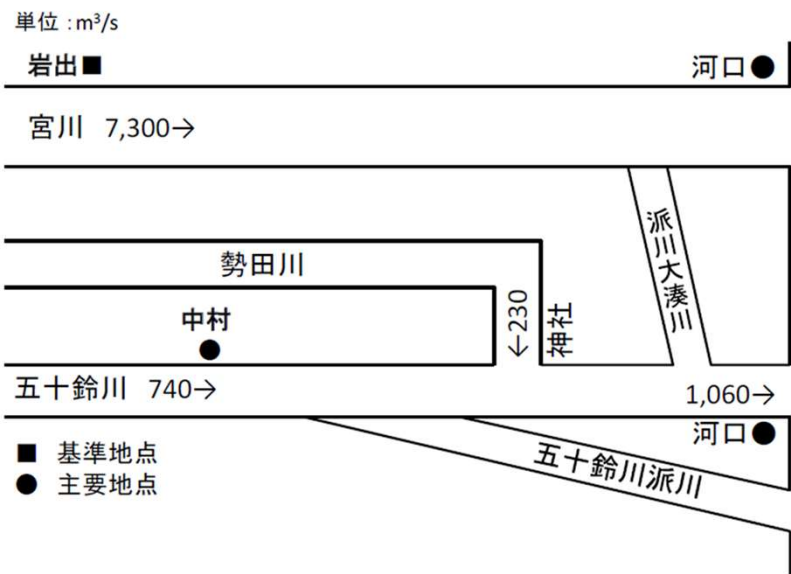
○ 河川整備基本方針では、宮川の基準地点岩出における基本高水のピーク流量8,400m³/sとし、このうち、洪水調節施設等により800m³/sを調節することで計画高水流量を7,600m³/sとした。



<基本高水のピーク流量の検討>
【工事実施基本計画(昭和51年4月)】
○昭和13年8月洪水の実績洪水を計画対象として、基準地点岩出の基本高水のピーク流量を8,400m³/sとする。
【河川整備基本方針(平成19年11月)】
○確率規模は氾濫原の重要度や人口・資産の分布状況等河川の重要度を踏まえ1/100とした。
○工事実施基本計画策定以降、計画を上回る規模の洪水が発生しておらず、流量確率による検証や既往洪水からの検証結果を踏まえ、宮川(岩出地点)の基本高水のピーク流量については、8,400m³/sを踏襲。
<河道及び洪水調節施設への配分の検討>
○基準地点岩出の基本高水のピーク流量8,400m³/sのうち、流域内の洪水調節施設(宮川ダム)により800m³/sを調節し、計画高水流量を7,600m³/sとする。

- 平成27年11月16日策定、対象期間:概ね30年
- 宮川では、平成16年9月洪水(戦後2番目)と同規模の洪水に対して、家屋等の浸水被害の防止を図る。
- 支川勢田川は昭和57年8月洪水(戦後3番目)と同規模の洪水に対して、家屋等の浸水被害の防止を図る。
- なお、五十鈴川は計画高水流量に相当する河道断面が確保されており、戦後最大洪水である昭和49年7月洪水が流下可能であることから、これを維持する。

河川名	地点名	目標流量 (m³/s)	洪水調節施設 等による 洪水調節量 (m³/s)	河道整備流量 (河道整備で 対応する流量) (m³/s)	備考
宮川	岩出	7,800	500	7,300	平成16年9月洪水 (戦後第2位)規模
五十鈴川	中村	740	0	740	
勢田川	神社	230	0	230	昭和57年8月洪水 (戦後第3位)規模



- 平成29年10月洪水(台風第21号)の浸水被害を受け、勢田川流域全体で、関係機関(伊勢市・三重県・国土交通省)が浸水被害軽減に向けた取組を実施するために「勢田川流域等浸水対策協議会」を平成30年1月に設立し、より効果的な対策を一体的に進めるための「勢田川流域等浸水対策実行計画」を平成30年6月に策定。
- 国土交通省は、これまでに短期整備として、勢田川の緊急的な堤防嵩上げや危機管理型水位計の設置、河道掘削を完了。現在、桧尻川排水機場ポンプの増強を実施。

目標・規模・対策期間

短期計画(H30～概ね5年) : 平成29年10月洪水(年超過確率1/30)に対して、勢田川からの溢水氾濫を解消する。
中長期計画(H30～概ね20～30年) : 昭和28年9月洪水(年超過確率1/30)に対して、浸水被害を解消する。
平成29年10月洪水(年超過確率1/100を超える規模)に対して、床上浸水を解消する。

対策内容・段階整備内容

内水計画の気候変動対応

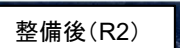
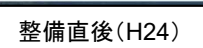
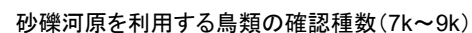
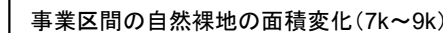
・伊勢市の雨水排水対策は、「流域関連伊勢市公共下水道計画(年超過確率1/10、78.1mm/h対応)」に基づき、整備を進めている。

区分	カテゴリー	No.	対象河川(流域)	内容	事業主体	実施する目標期間	
						短期計画 平成30年度～令和7年度	中長期計画 (今後20～30年程度)
ハード対策	河川整備	1	勢田川	緊急的な堤防かさ上げ	国土交通省		
		2	勢田川	河道掘削・堤防かさ上げ	国土交通省		
				河道断面の拡幅	国土交通省		
		3	勢田川	勢田川排水機場ポンプ増強	国土交通省		
		4	勢田川	逆流防止フラップ弁設置	伊勢市		
		5	桧尻川	桧尻川排水機場ポンプ増強	国土交通省		
		6	桧尻川(指定区間)	河道掘削	三重県		
		7	桧尻川(指定区間)	河川整備	三重県		
		8	桧尻川(準用河川)	河川整備	伊勢市		
	雨水対策排水	9	勢田川・桧尻川流域	下水道整備	伊勢市		
		10	勢田川・桧尻川流域	流域における総合治水対策	国土交通省 三重県・伊勢市	整備計画策定 3排水区整備を集中的に先行実施 黒潮ポンプ助ポンプ増強	
ソフト対策		11	勢田川	危機管理型水位計の設置	国土交通省		
		12	勢田川(指定区間・準用河川)	危機管理型水位計の設置	三重県 伊勢市		
		13	勢田川流域	洪水浸水想定区域の指定・公表	国土交通省		
		14	勢田川(指定区間)流域	洪水浸水想定区域図の作成	三重県		
		15	勢田川流域	洪水浸水想定区域の説明会の実施	国土交通省 伊勢市		
		16	桧尻川(準用河川)	危機管理型水位計の設置	伊勢市		
		17	桧尻川流域	洪水浸水想定区域図の作成	三重県		
		18	桧尻川流域	洪水浸水想定区域の説明会の実施	三重県 伊勢市		
		19	勢田川・桧尻川流域	ハザードマップの更新	伊勢市	平成29年度更新	
		20	勢田川・桧尻川流域	防災啓発体制の強化	伊勢市		
		21	勢田川・桧尻川流域	伊勢市防災大学の開催	伊勢市		
		22	勢田川・桧尻川流域	伊勢市防災コーディネーターの設定	伊勢市		
		23	勢田川・桧尻川流域	防災教育の強化	国土交通省 三重県・伊勢市		
		24	勢田川・桧尻川流域	勢田川浸水状況共有システムの構築	国土交通省 三重県・伊勢市		

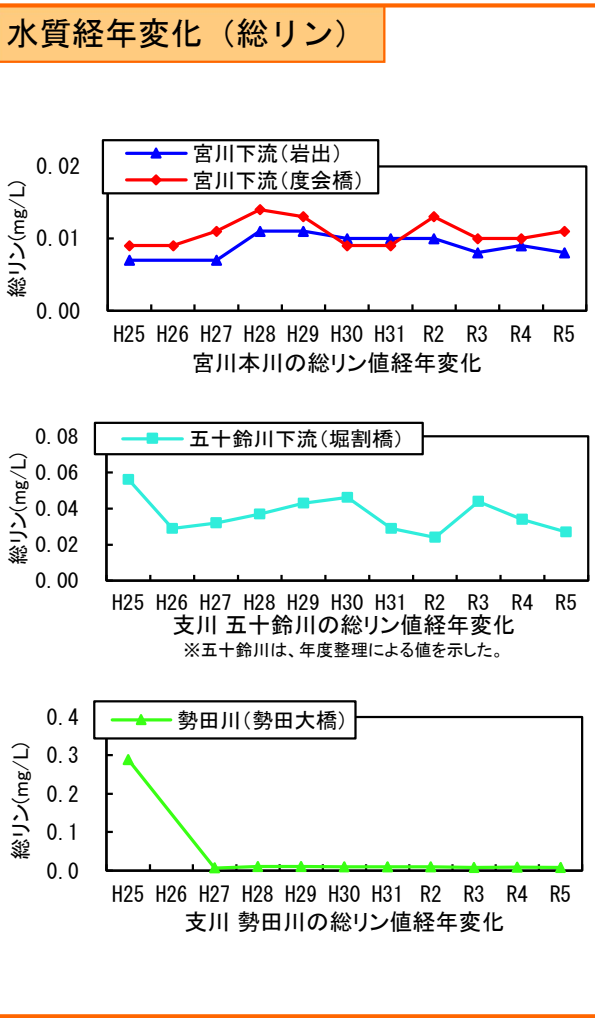
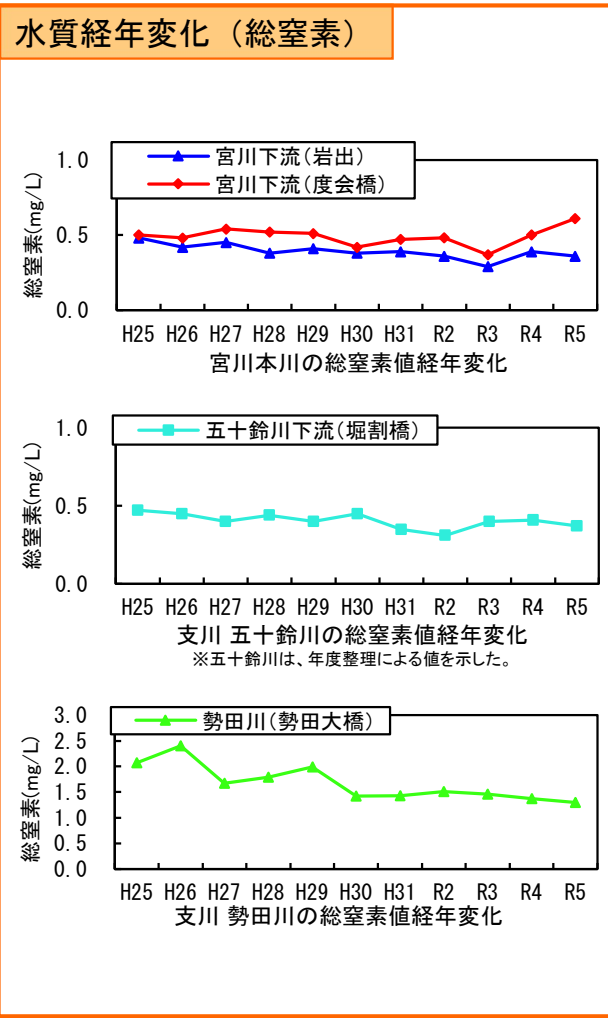
実施済み

実施中・今後実施

- ## 床上浸水対策特別事業における環境整備のコンセプト



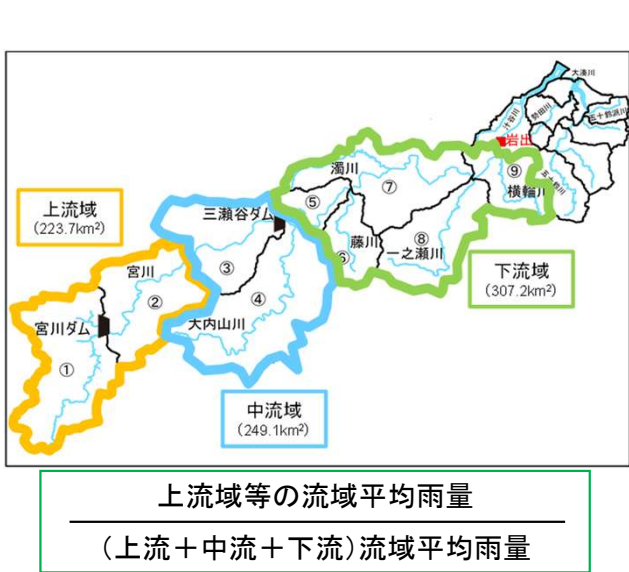
- 宮川の下流部は広い高水敷を利用した親水公園・グラウンド等が多く整備されており、利用者が多い。また下流部は伊勢神宮との関わりが深く、伊勢神宮にまつわる歴史的遺産が多く存在する。中流部では、レキ河原でのキャンプ、水遊び、カヌーといったレジャー利用が見られる。上流部は大杉谷や数多くの滝に代表される渓谷美を楽しむ景勝地として、また、釣り場やキャンプ場として利用されている。
- 河川水質について、宮川、五十鈴川の総窒素、総リンは概ね安定して推移している。勢田川は改善傾向となっている。



②基本高水のピーク流量の検討

- 気候変動による降雨パターンの変化(特に小流域集中度の変化)により、これまでの手法で棄却されていた実績引き伸ばし降雨波形の発生が十分予想される場合がある。このため、これまでの手法で棄却されていた実績引き伸ばし降雨波形を、当該水系におけるアンサンブル予測降雨波形による降雨パターンと照らし合わせる等により再検証を実施。
- その結果、棄却した7洪水のうち、アンサンブル予測降雨から推定される時間分布、地域分布の雨量比(基準地点と小流域の比率)以内に収まる洪水としては、6洪水を棄却とせず、参考波形として活用。

棄却された実績引き伸ばし降雨における発生の可能性を検討 2PDF(将来実験)から計画降雨量±10%(14洪水)のアンサンブル降雨波形を抽出して以下のチェックを実施



小流域のチェック					
各波形について、継続時間内の小流域の流域平均雨量／流域平均雨量を求める(各小流域の流域全体に対する雨量の比率)					
No.	洪水名	上流域		中流域	
		18時間 予測雨量 ④ (mm)	比率 ④/①	18時間 予測雨量 ⑤ (mm)	比率 ⑤/①
1	HFB_2K_GF_m101_2070/08洪水	880.8	1.626	484.8	0.895
2	HFB_2K_GF_m101_2079/10洪水	563.4	0.937	656.4	1.091
3	HFB_2K_GF_m105_2067/08洪水	681.4	1.313	511.8	0.986
4	HFB_2K_GF_m105_2071/08洪水	818.4	1.456	543.6	0.967
5	HFB_2K_GF_m105_2084/09洪水	489.4	0.969	481.6	0.954
6	HFB_2K_HA_m101_2068/09洪水	609.4	1.126	508.5	0.939
7	HFB_2K_HA_m101_2074/07洪水	719.4	1.405	518.2	1.012
8	HFB_2K_MI_m101_2088/07洪水	737.7	1.414	647.9	1.242
9	HFB_2K_MI_m105_2087/09洪水	367.6	0.645	860.7	1.511
10	HFB_2K_MP_m101_2067/09洪水	784.9	1.320	676.2	1.137
11	HFB_2K_MP_m101_2073/07洪水	765.7	1.532	439.2	0.879
12	HFB_2K_MP_m105_2077/09洪水	564.6	0.958	658.3	1.117
13	HFB_2K_MP_m105_2090/08洪水	723.8	1.452	485.2	0.973
14	HFB_2K_MR_m101_2068/07洪水	546.3	0.930	596.9	1.016
最大比率		—	1.626	—	1.511

短時間降雨のチェック

各波形について、短時間（洪水到達時間や計画降雨継続時間の1/2）の流域平均雨量／継続時間内の流域平均雨量を求める（短時間雨量と継続時間雨量との比率）

No.	洪水名	岩出地点上流域				
		18時間 予測雨量 ① (mm)	8時間 予測雨量 ② (mm)	9時間 予測雨量 ③ (mm)	比率 ②/①	比率 ③/①
1	HFB 2K GF m101 2070/08洪水	541.6	282.9	312.4	0.522	0.577
2	HFB 2K GF m101 2079/10洪水	601.5	469.3	495.5	0.780	0.824
3	HFB 2K GF m105 2067/08洪水	519.0	351.9	369.8	0.678	0.713
4	HFB 2K GF m105 2071/08洪水	561.9	363.1	394.1	0.646	0.701
5	HFB 2K GF m105 2084/09洪水	504.9	419.1	436.1	0.830	0.864
6	HFB 2K HA m101 2068/09洪水	541.3	367.3	392.8	0.679	0.726
7	HFB 2K HA m101 2074/07洪水	511.9	297.7	324.0	0.582	0.633
8	HFB 2K MI m101 2088/07洪水	521.6	335.7	365.4	0.644	0.701
9	HFB 2K MI m105 2087/09洪水	569.7	358.2	383.5	0.629	0.673
10	HFB 2K MP m101 2067/09洪水	594.8	397.3	414.5	0.668	0.697
11	HFB 2K MP m101 2073/07洪水	499.8	313.8	336.9	0.628	0.674
12	HFB 2K MP m105 2077/09洪水	589.5	411.1	453.6	0.697	0.769
13	HFB 2K MP m105 2090/08洪水	498.6	302.9	331.2	0.608	0.664
14	HFB 2K MR m101 2068/07洪水	587.4	431.4	460.2	0.734	0.783
最大比率					0.830	0.864

棄却した引き伸ばし降雨波形も同様に比率を求め、実績引き伸ばし降雨波形の比率がアンサンブル予測降雨波形による比率と大きく逸脱していないか確認する等のチェックを行う

参考波形として活用(6洪水)

洪水 年月日	岩出上流域			上流域		中流域		下流域	
	実績雨量 (mm/18h)	計画雨量 (mm/18h)	拡大率	拡大後雨量 (mm/18h)	比率	拡大後雨量 (mm/18h)	比率	拡大後雨量 (mm/18h)	比率
S54.10.19	350.6	554	1.581	696.4	1.256	483.6	0.872	380.6	0.687
S57.08.02	314.8	554	1.761	605.8	1.093	489.4	0.883	441.6	0.797
H02.09.20	286.9	554	1.932	863.6	1.558	449.3	0.810	286.9	0.517
H02.09.20	222.7	554	1.718	612.6	1.105	525.2	0.966	288.7	0.721
H03.09.19	329.0	554	1.685	340.7	0.615	508.6	0.917	619.2	1.117
H06.09.30	358.2	554	1.548	731.4	1.319	493.4	0.890	347.1	0.626
H09.07.27	429.9	554	1.290	683.9	1.234	489.0	0.882	384.8	0.694
H16.09.29	469.4	554	1.181	741.5	1.337	595.3	1.074	257.4	0.464
H23.07.20	385.0	554	1.440	812.9	1.466	412.6	0.744	353.3	0.637
H23.09.04	457.5	554	1.212	599.6	1.082	599.9	1.082	356.9	0.644
H27.08.26	339.4	554	1.633	732.4	1.321	541.4	0.977	307.2	0.554
H29.10.23	390.8	554	1.419	544.0	0.981	436.1	0.787	530.2	0.956

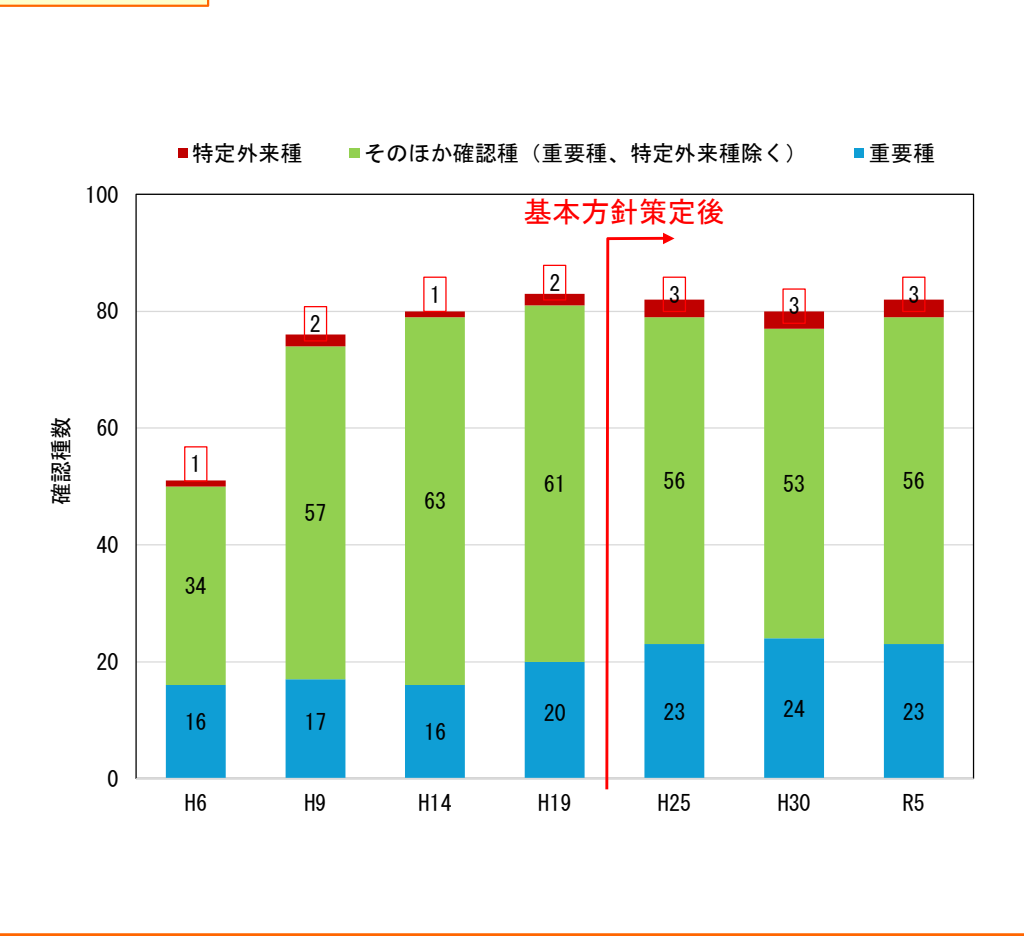
洪水 年月日	岩出上流域				
	実績雨量 (mm/18h)	①計画雨量 (mm/18h)	②8時間拡大後雨量 (mm/8h)	比率 ②/①	③9時間拡大後雨量 (mm/11h)
S54.10.19	350.6	554	257.8	0.465	271.1
S57.08.02	314.8	554	351.9	0.635	383.0
H02.09.20	286.9	554	382.1	0.689	404.8
H02.09.20	222.7	554	413.6	0.746	438.0
H03.09.19	329.0	554	327.7	0.591	358.9
H06.09.30	358.2	554	382.8	0.690	402.3
H09.07.27	429.9	554	298.0	0.538	321.5
H16.09.29	469.4	554	299.0	0.539	316.6
H23.07.20	385.0	554	240.6	0.434	254.7
H23.09.04	457.5	554	327.2	0.590	350.7
H27.08.26	339.4	554	354.9	0.640	383.4
H29.10.23	390.8	554	366.2	0.661	384.2

: 生起し難いとはいえないと判断される洪水

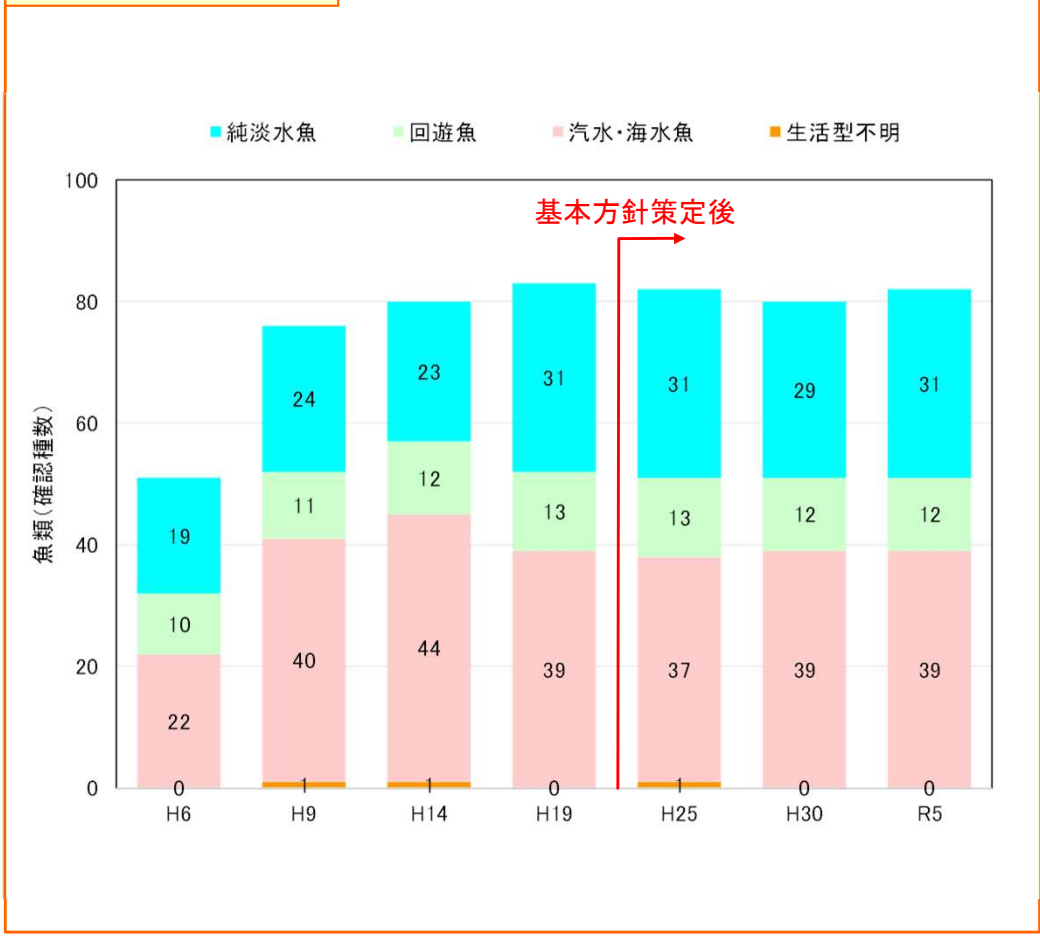
⑤河川環境・河川利用についての検討

- 魚類について、重要種・特定外来種等で分類した場合と回遊型による分類を実施。
- 確認種数は、近年はほぼ一定となっている。

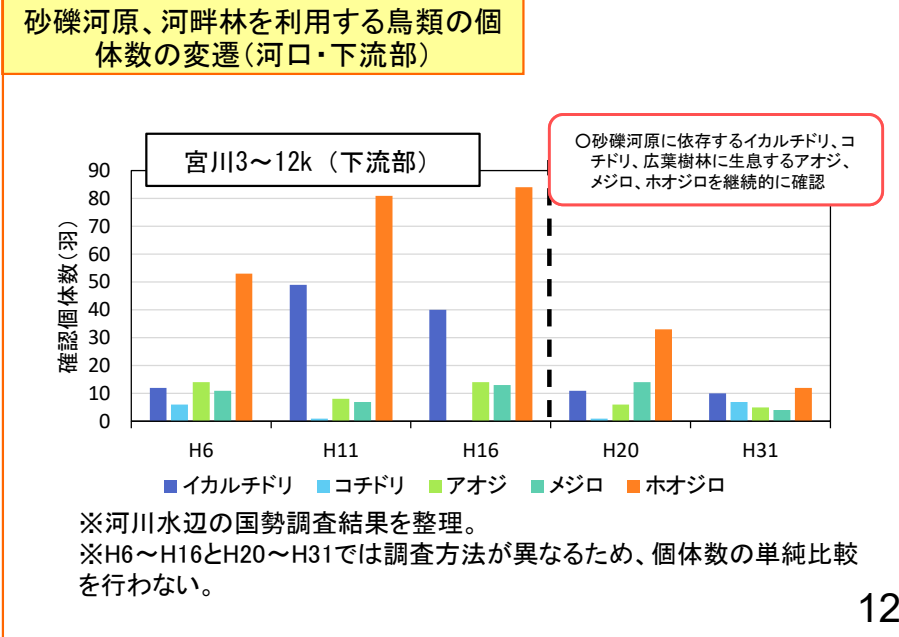
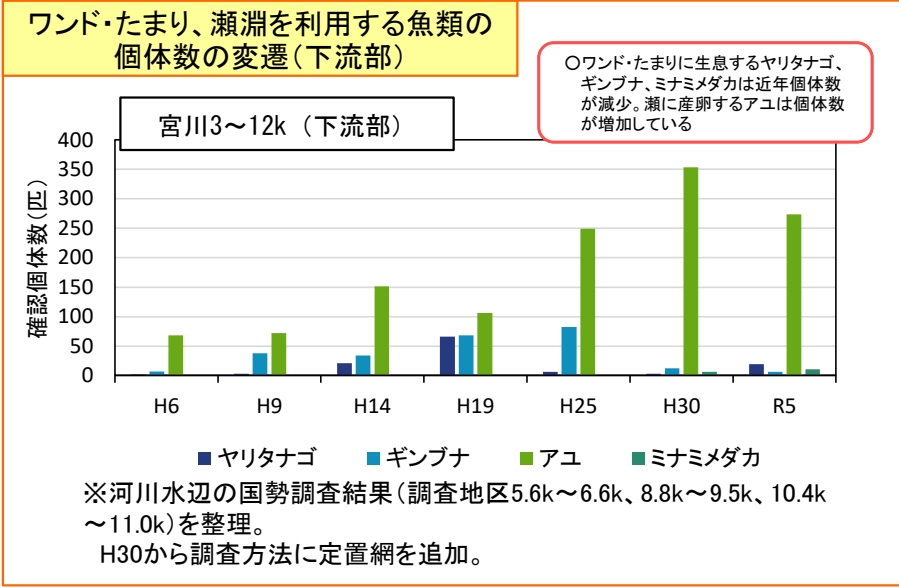
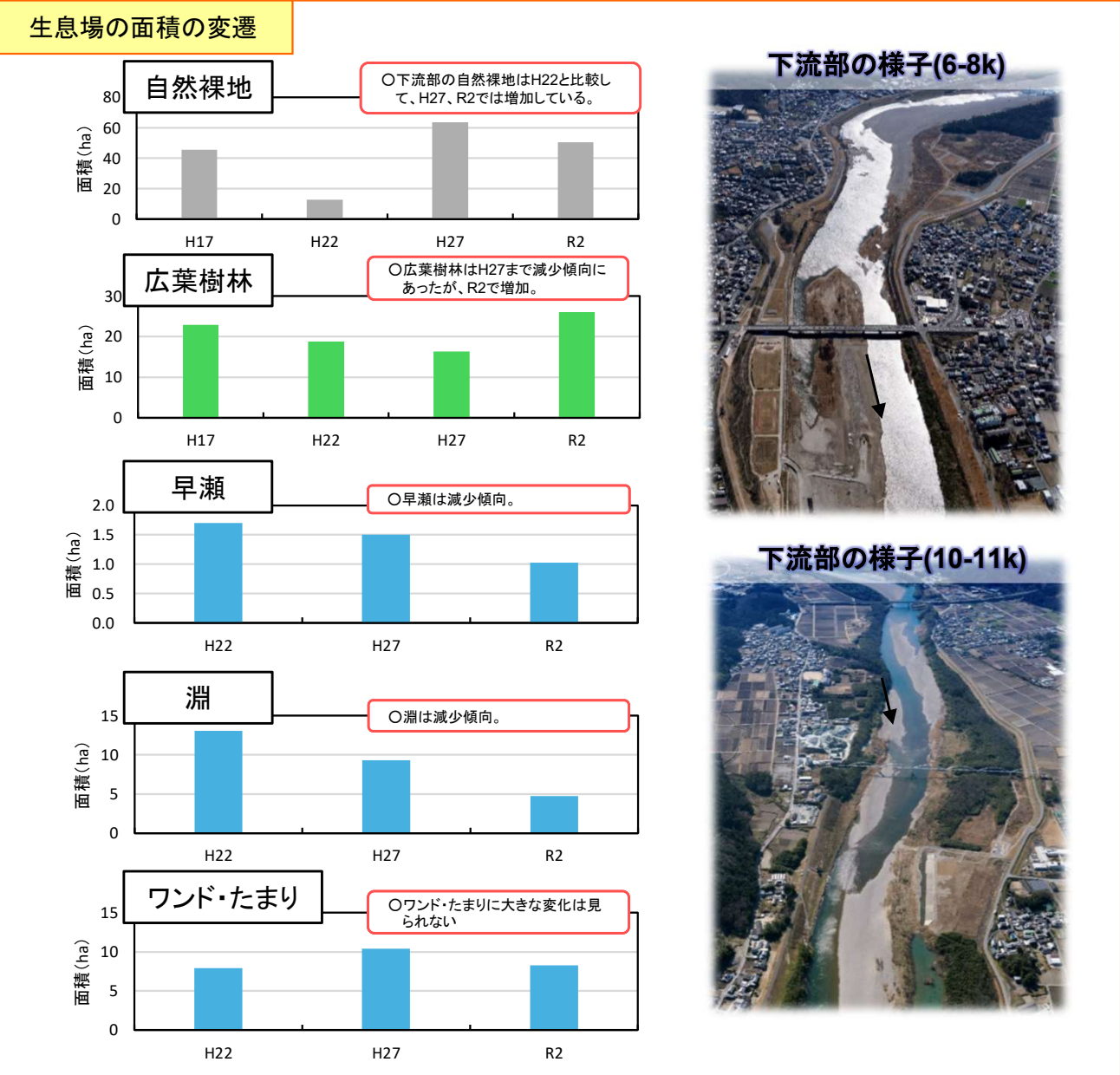
魚類相の変遷



生活型による変遷



- 自然裸地、広葉樹林は継続して確認。早瀬及び淵は減少傾向にある。ワンド・たまりの面積に顕著な変化は見られない。
- ワンド・たまりを利用する魚類は近年減少傾向にあり、瀬淵に産卵するアユは増加している。砂礫河原、河畔林を利用する鳥類は経年的に確認されている。
- 砂礫河原、河畔林、ワンド・たまり、連続する瀬と淵の保全・創出を図るとともに、それらの環境を利用する動植物の個体数の変遷について継続的なモニタリングを行い、順応的な対応を行う。



○ 宮川の区分2(3～12k間)は、瀬淵や砂礫河原、ワンド環境、河畔林が形成され、多様な生物の生息場となっている。

目標とする良好な区間

a)生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)											
距離標(空間単位:1km)			3	4	5	6	7	8	9	10	11
大セグメント区分			セグメント2-1								
河川環境区分			区分2								
典型性	陸域	1. 低・中草地		△	○	○	○	○	○		△
		2. 河辺性の樹林・河畔林		○	△	○	△	○	○	△	△
		3. 自然裸地	○	○	○	△	△	○	○	△	△
		4. 外来植物生育地	△	△	×	△	×	×	×	×	△
	水際域	5. 水生植物帯	○	△	○	△					
		6. 水際の自然度	△	○	○	△	○	○	○	○	△
		7. 水際の複雑さ	○	○	○	△	○	△	○	△	△
		8. 連続する瀬と淵				△	○	○	○	△	△
	水域	9. ワンド・たまり	△		○	○	△	△	○	△	○
		10. 湛水域									
	汽水	11. 干潟	△	△	-	-	-	-	-	-	-
		12. ヨシ原	○	△	○	-	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値			4	4	6	4	4	2	6	0	2
b) 生物との関わりの強さの評価											
距離標(空間単位:1km)			3	4	5	6	7	8	9	10	11
大セグメント区分			セグメント2-1								
河川環境区分			区分2								
重要種数	重要種数	魚類(H30)			6	4		7	9	11	1
		底生動物(H30)			2	2		5	6	6	
		植物(H26)			4	1			3		4
		鳥類(R1)	1	2		2	2	2	1	2	
		両・爬・哺(H25)			1			5	3	3	3
		陸上昆虫類(H28)			3	3		15	14	8	8
		重要種全体合計	1	2	16	12	2	34	36	30	16
特選種と保存する生息場の関係	魚類	ヤリタナゴ							3		
		ワンド・たまり	△		○	○	△	△	○	△	○
		スナヤツメ類				1					
		連続する瀬と淵				△	○		○	△	△
		アカザ							9	6	
		連続する瀬と淵				△	○		○	△	△
鳥類	イカルチドリ				3	7					
	自然裸地	○	○	○	△	△	○	○	△	△	
生物との関わりの強さの評価値			1	1	2	1	2	1	4	0	1
生物との関わりの強さに関するコメント			河川整備計画に従い選定。								
※河川水辺の国勢調査で確認された重要種数、個体数を示す。											
c) 代表区間の選定											
距離標(空間単位:1km)			3	4	5	6	7	8	9	10	11
河川環境区分			区分2								
生息場の多様性の評価値			4	4	6	4	4	2	6	0	2
生物との関わりの強さの評価値			1	1	2	1	2	1	4	0	1
代表区間候補の抽出					B		B		A		
候補の抽出理由			A評価値が両方とも1位 B評価値が両方とも2位以内								
橋の有無				○		○					
代表区間の選定結果										★	



ワンド・たまり
(宮川左岸10k付近)

ヤリタナゴ

【現状】

- ・水域には瀬淵が連続し、度会橋より上流ではアユの産卵場が見られる。
- ・水際にはワンド・たまりが形成され、ヤリタナゴ、アブラボテ等のタナゴ類やギンブナ、ミナミメダカが生息している。
- ・砂礫河原にはイカルチドリ、コチドリ等が生息・繁殖している。
- ・ムクノキ・エノキ林等の広葉樹林が分布し、アオジ、メジロ、ホオジロ等の鳥類や、樹林性のゴマダラチョウ等の昆虫類等、多様な生物の生息場となっている。

【目標】

- ・アユの産卵場となる連続する瀬淵やヤリタナゴ等が生息するワンド・たまり環境を保全・創出する。
- ・イカルチドリやコチドリの生息・繁殖場となる砂礫河原を保全・創出する。
- ・多様な生物の生息場となる広葉樹林からなる河畔林を保全・創出する。

宮川【上流部・源流部】

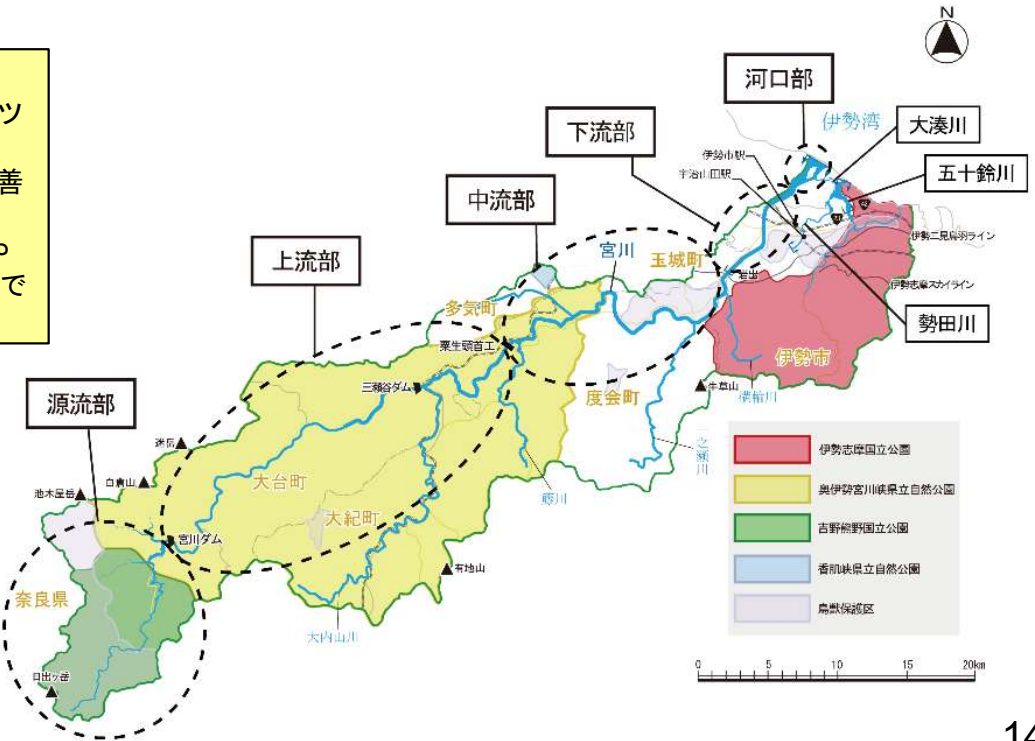
- 【現状】
- 大杉谷周辺には、ブナ・ミズナラ群落、アカシデ・イヌシデ群落等の自然林、スギ・ヒノキ・サワラ等の植林やシイ・カシ萌芽林が分布している。
 - 源流部には、国の天然記念物に指定されているニホンカモシカや、県の天然記念物に指定されているオオダイガハラサンショウウオが生息している。
 - 大きな蛇行に伴い形成された連続する瀬淵には、ネコギギ、アジメドジョウ、カジカ等が生息している。
- 【目標】
- 上流部においては、貴重な原生林が広がる「大杉谷」が存在し、また、ニホンカモシカやネコギギ、オオダイガハラサンショウウオ、アジメドジョウ、カジカ等が生息・繁殖することから、良好な溪流環境の保全、創出を図る。

いすずがわ
五十鈴川、大湊川

- 【現状】
- 河口部は干潟が形成され、干潟はシギ・チドリ類の集団中継地、カモ類の集団越冬地として利用されている。
- 【目標】
- シギ・チドリ類の集団中継地となっている干潟の保全、創出を図る。

勢田川

- 【現状】
- 市街地を流れる都市河川であり、ほぼ全川で兩岸に護岸が整備され、水際には干潟やツルヨシ等の植生が一部区間で見られるのみである。
 - 生活排水等の流入により水質悪化が見られていたが、近年は地域一体となった水質改善に取り組んでおり、環境基準を満足している。
 - 宮川勢田川水辺整備事業（H27完了）により護岸整備が実施され、周辺の「川の駅」や「海の駅」等との周遊性の改善などが図られた。また、かわまちづくりにも取り組んでおり、イベントに活用されるなど水辺利用が盛んである。
- 【目標】
- 地域と連携した水質改善を引き続き進めていく。
 - かわまちづくり等により、地域における河川利用の活性化を図っていく。



河川名	本文（一部抜粋） 赤文字：重要種、青文字：重要種以外	分類	掲載種等	区分	根拠	確認年度	宮川水系における個体数の増減	
宮川	源流から粟生頭首工までの上流部のうち、源流部は、多量の雨による侵食で深いV字谷が形成され、大小100もの滝を有し、美しい渓谷美をつくりだしている。「大杉谷」は、上流はブナ-ミズナラ群落、アカシデ-イヌシデ群落等が広がり、本州南部における代表的原生林として極めて貴重であることから、国指定の天然記念物に指定されている。また、国指定の特別天然記念物であるニホンカモシカや県指定の天然記念物であるオオダイガハラサンショウウオ等が生息している。 宮川ダムから粟生頭首工までは、V字谷と河岸段丘が蛇行を繰り返しながら続き、大きな蛇行に伴い形成された連続する瀬淵には、国指定の天然記念物であるネコギギやアジメドジョウ、カジカ等が生息する。 宮川上流部においては、貴重な原生林が広がる「大杉谷」が存在し、また、ニホンカモシカやネコギギ、オオダイガハラサンショウウオ、アジメドジョウ、カジカ等が生息・繁殖することから、良好な溪流環境の保全、創出を図る。	魚類	アジメドジョウ （ 環VU ）	上流部	三重県調査	H6, 9, 14, 19	-	個体数変動は不明
		魚類	ネコギギ （ 国天, 県天, 環EN, 三CR ）		三重県調査	H19	-	個体数変動は不明
		魚類	カジカ （ 環NT, 三EN ）		三重県調査	H6, 9, 14, 19	-	個体数変動は不明
		両生類	オオダイガハラサンショウウオ （ 環VU, 三VU ）		環境省調査	S63～H11	-	個体数変動は不明
		哺乳類	ニホンカモシカ （ 特天, 三VU ）		環境省調査	S63～H17	-	個体数変動は不明
		魚類	スナヤツメ 類（ 環VU, 三VU ）	中流部	三重県調査	H9, 14, 19	-	個体数変動は不明
	粟生頭首工から基準地点岩出までの中流部は、発達した河岸段丘に自然河岸が多く残り、蛇行による瀬淵には清流を好むアカザやスナヤツメ類、カマキリ等が生息する。 宮川中流部においては、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境となっている自然河岸を保全するとともに、アカザ、スナヤツメ、カマキリ等が生息・繁殖する瀬や淵の保全、創出を図る。	魚類	アカザ （ 環VU, 三NT ）		三重県調査	H6, 9, 14, 19	-	個体数変動は不明
		魚類	カマキリ （ 環VU, 三VU ）		三重県調査	H19	-	個体数変動は不明
	基準地点岩出から河口までの下流部は、徐々に川幅が広がり、瀬や淵が連続し、度会橋より上流ではアユの産卵床が形成されている。水際にはワンド・たまりが形成され、ヤリタナゴ、アブラボテ等のタナゴ類や、ギンブナ、ミナミメダカ等の緩やかな流れを好む魚類が生息し、砂礫河原にはイカルチドリ、コチドリ等の鳥類が生息している。また、高水敷や河岸にはムクノキやエノキ等の広葉樹林が分布し、アオジ、メジロ、ホオジロ等の鳥類や樹林性のゴマダラチョウ等の昆虫類等、多様な生物の生息場となっている。 宮川下流部においては、アユの産卵場となる連続する瀬淵やヤリタナゴ等が生息するワンド・たまり環境やイカルチドリやコチドリの生息・繁殖場となる砂礫河原を保全・創出する。また、多様な生物の生息場となる広葉樹林からなる河畔林については、治水との整合を図りつつ保全・創出を図る。	魚類	ヤリタナゴ （ 環NT, 三VU ）	下流部	国交省調査	H6, 9, 14, 19, 25, 30, R5	→	年変動が大きい（数個体～数十個体）が継続的に確認
		魚類	アブラボテ （ 環NT, 三EN ）		国交省調査	H9, R5	→	H9、R5のみの確認で、2個体のみであり少ない
		魚類	ミナミメダカ （ 環VU, 三NT ）		国交省調査	H30, R5	↑	H30以降確認され、個体数は増加。
		鳥類	イカルチドリ （ 三VU ）		国交省調査	H6, 11, 16, 20, R1	→	H11、H16は個体数が多く40個体程度、以降のH20、R1では10個体程度確認
	河口部は干潟、ヨシ原が形成され、シオクダ、アイアシ等の塩沼植物が生育している。干潟はヤマトオサガニ等のカニ類、ゴカイ類等が生息・繁殖しているほか、シロチドリ等のシギ・チドリ類の集団中継地、カモ類の集団越冬地として利用されている。ヨシ原は、ヨシ原に依存するオオヨシキリやオカミミガイが生息・繁殖場として利用している。 宮川河口部においては、シロチドリ等のシギ・チドリ類の集団中継地となっている干潟や、オオヨシキリやオカミミガイの生息・繁殖地であるヨシ原等の保全・創出を図る。	植物	アイアシ （ 三VU ）	河口部	国交省調査	H7, 12, 17, 27, R2	→	面積は0.1～0.2ha程度で継続して確認
		鳥類	シロチドリ （ 三希, 環VU, 三繁CR, 越NT ）		国交省調査	H6, 11, 16, 20, R1	↓	H16の117個体をピークに、H20は94個体、R2は12個体と減少
		底生動物	オカミミガイ （ 環VU, 三VU ）		国交省調査	H25, H30, R5	→	H25は1個体、H30は10個体、R5は5個体で継続的に確認

河川名	本文（一部抜粋） 赤文字：重要種、青文字：重要種以外	分類	掲載種等	区分	根拠	確認年度
宮川	源流から粟生頭首工までの上流部のうち、源流部は、多量の雨による侵食で深いV字谷が形成され、大小100もの滝を有し、美しい渓谷美をつくりだしている。「大杉谷」は、上流はブナ-ミズナラ群落、アカシデ-イヌシデ群落等が広がり、本州南部における代表的原生林として極めて貴重であることから、国指定の天然記念物に指定されている。また、国指定の特別天然記念物であるニホンカモシカや県指定の天然記念物であるオオダイガラサンショウウオ等が生息している。 宮川ダムから粟生頭首工までは、V字谷と河岸段丘が蛇行を繰り返しながら続き、大きな蛇行に伴い形成された連続する瀬淵には、国指定の天然記念物であるネコギギやアジメドジョウ、カジカ等が生息する。 宮川上流部においては、貴重な原生林が広がる「大杉谷」が存在し、また、ニホンカモシカやネコギギ、オオダイガラサンショウウオ、アジメドジョウ、カジカ等が生息・繁殖することから、良好な溪流環境の保全、創出を図る。	植物	ブナ	上流部	環境省調査	H23
		植物	スギ		環境省調査	H23
		植物	ヒノキ		環境省調査	H23
		植物	サワラ		環境省調査	H23
		植物	アカシデ		環境省調査	H23
		植物	イヌシデ		環境省調査	H23
	基準地点岩出から河口までの下流部は、徐々に川幅が広がり、瀬や淵が連続し、度会橋より上流ではアユの産卵床が形成されている。水際にはワンド・たまりが形成され、ヤリタナゴ、アブラボテ等のタナゴ類や、ギンブナ、ミナミメダカ等の緩やかな流れを好む魚類が生息し、砂礫河原にはイカルチドリ、コチドリ等の鳥類が生息している。また、高水敷や河岸にはムクノキやエノキ等の広葉樹林が分布し、アオジ、メジロ、ホオジロ等の鳥類や樹林性のゴマダラチョウ等の昆虫類等、多様な生物の生息場となっている。 宮川下流部においては、アユの産卵場となる連続する瀬淵やヤリタナゴ等が生息するワンド・たまり環境やイカルチドリやコチドリの生息・繁殖場となる砂礫河原を保全・創出する。また、多様な生物の生息場となる広葉樹林からなる河畔林については、治水との整合を図りつつ保全・創出を図る。	魚類	ギンブナ	下流部	国交省調査	H6, 9, 14, 19, 25, 30, R5
		魚類	アユ		国交省調査	H6, 9, 14, 19, 25, 30, R5
		植物	ムクノキ		国交省調査	H7, 12, 17, 26
		植物	エノキ		国交省調査	H7, 12, 17, 26
		鳥類	コチドリ		国交省調査	H6, 11, 16, 20, R1
		鳥類	アオジ		国交省調査	H6, 11, 16, 20, R1
		鳥類	メジロ		国交省調査	H6, 11, 16, 20, R1
		鳥類	ホオジロ		国交省調査	H6, 11, 16, 20, R1
		昆虫類	ゴマダラチョウ		国交省調査	H13, H18, H28
	河口部は干潟、ヨシ原が形成され、シオクグ、アイアシ等の塩沼植物が生育している。干潟はヤマトオサガニ等のカニ類、ゴカイ類等が生息・繁殖しているほか、シロチドリ等のシギ・チドリ類の集団中継地、カモ類の集団越冬地として利用されている。 ヨシ原は、ヨシ原に依存するオオヨシキリやオカミミガイが生息・繁殖場として利用している。 宮川河口部においては、シロチドリ等のシギ・チドリ類の集団中継地となっている干潟や、オオヨシキリやオカミミガイの生息・繁殖地であるヨシ原等の保全・創出を図る。	魚類	ハゼ類	河口部	国交省調査	H6, 9, 14, 19, 25, 30, R5
		底生生物	ヤマトオサガニ		国交省調査	H9, 14, 20, 25, 30, R5
		底生生物	ゴカイ類		国交省調査	H9, 14, 20, 25, 30, R5
		植物	シオクグ		国交省調査	H7, 12, 17, 27, R2
		植物	ヨシ		国交省調査	H7, 12, 17, 26
		鳥類	オオヨシキリ		国交省調査	H11, 16, 20, R1
		鳥類	カモ類		国交省調査	H6, 11, 16, 20, R1

- 岩出地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、4月～5月及び9月16日～12月で概ね6m³/s、それ以外の時期で概ね4m³/sとする。
- 宮川における水利用は、農業用水として約10.78m³/s、発電用水として約100.00m³/s、工業用水として約0.02m³/s、その他の用水として約0.03m³/s、合計約110.83m³/sと多岐に渡って利用されている。
- 岩出地点における過去46年間(昭和51年～令和5年のうち欠測の2カ年を除く)の平均渇水流量は約5.06m³/s、平均低水流量は約9.41m³/sとなっている。

正常流量の基準地点

基準地点は、以下の点を勘案し、「岩出地点」とした。

① 昭和50年度以降流量観測が行われており、水文データが十分に整備されている。

② 大規模取水の下流部に位置し、水収支が明確である。

③ 滞筋が安定しているため、河川流量の把握に適している。

④ 高水の基準地点であり、治水、利水の一元管理ができる。

維持流量の設定

項目	検討内容・決定根拠等
①動植物の生息地又は生育地の状況	アユ、ウグイ、サツキマス、ヨシノボリ類、アカザ、ウツセミカジカ、ボウズハゼの移動及び産卵に必要な流量を設定。
②景観	アンケート調査を踏まえ、良好な景観を確保するために必要な流量を設定。
③流水の清潔の保持	環境基準(BOD)の2倍値を満足するために必要な流量を設定。
④舟運	小舟・プレジャーボートを除き、舟運がないため設定しない。
⑤漁業	動植物の生息地又は生育地の状況を満足する流量を設定。
⑥塩害の防止	過去に塩害は発生していないため設定しない。
⑦河口閉塞の防止	過去に河口閉塞は発生していないため設定しない。
⑧河川管理施設	対象となる河川管理施設は存在しないため設定しない。
⑨地下水位の維持	過去に地下水の取水障害は発生していないため設定しない。

動植物の生息地又は生育地の状況 必要流量 0.80～4.80m³/s

- アユ、ウグイ、サツキマス、ヨシノボリ類、アカザ、ウツセミカジカ、ボウズハゼの移動及び産卵に必要な流量を設定。
- 正常流量を決定する維持流量は、南伊勢大橋下流地点における、かんがい期のサツキマス、ボウズハゼ、ヨシノボリ類の移動及び産卵、非かんがい期のウツセミカジカ、アユの産卵により決定。

景観 必要流量 0.71～2.22m³/s

- フォトモンタージュを用いたアンケート調査により、良好な景観を確保するための見かけの水面幅と河川幅の割合を決定し、必要な流量を設定。

中川大橋上流

流水の清潔の保持 必要流量 0.74～1.49m³/s

- 最新の流総計画における将来の流出負荷量を基に、渇水時において環境基準(BOD)2倍値を満足するために必要な流量を設定。

流況

現況流況で平均渇水流量約5.06m³/s、平均低水流量約9.41m³/sとなっている。

項目	単位	豊水流量	平水流量	低水流量	渇水流量
平均値	m³/s	37.24	17.29	9.41	5.06
最大値	m³/s	111.31	67.32	18.29	14.75
最小値	m³/s	15.05	8.46	4.06	1.46
W=1/10	m³/s	22.49	10.45	5.73	2.18
	m³/s/100km²	2.88	1.34	0.73	0.28

※統計期間：S51～R5(欠測の2カ年を除いた46年間)
w=1/10：S51～R5(欠測の2カ年を除いた46年間)の第5位/46年
岩出地点流域面積：780.0km²

正常流量の設定

代表地点 (流域面積)	正常流量(m³/s) (比流量 m³/s/100km²)							現況流況(m³/s) (比流量 m³/s/100km²)
	1/1～3/31		4/1～5/31		6/1～9/15		9/16～12/31	
岩出 (780.0km²)	期間1 1/1～1/31 非かんがい期	期間2 2/1～3/31 非かんがい期	期間3 4/1～4/30 かんがい期	期間4 5/1～5/31 かんがい期	期間5 6/1～6/30 かんがい期	期間6 7/1～9/15 かんがい期	期間7 9/16～12/31 非かんがい期	平均渇水流量 5.06(0.65) 平均低水流量 9.41(1.21)
	2.4(0.31)	3.7(0.47)	5.1(0.65)	5.1(0.65)	3.8(0.49)	3.8(0.49)	5.5(0.71)	
設定根拠	ウツセミカジカの産卵		サツキマスの移動		ヨシノボリ類の産卵		アユの産卵	

期間2 非かんがい期
(2/1～3/31)

期間4 かんがい期
(5/1～5/31)

期間5 かんがい期
(6/1～6/30)

期間7 非かんがい期
(9/16～12/31)

— 維持流量

- - 河川区分

● 必要流量(魚類)

▲ 必要流量(景観)

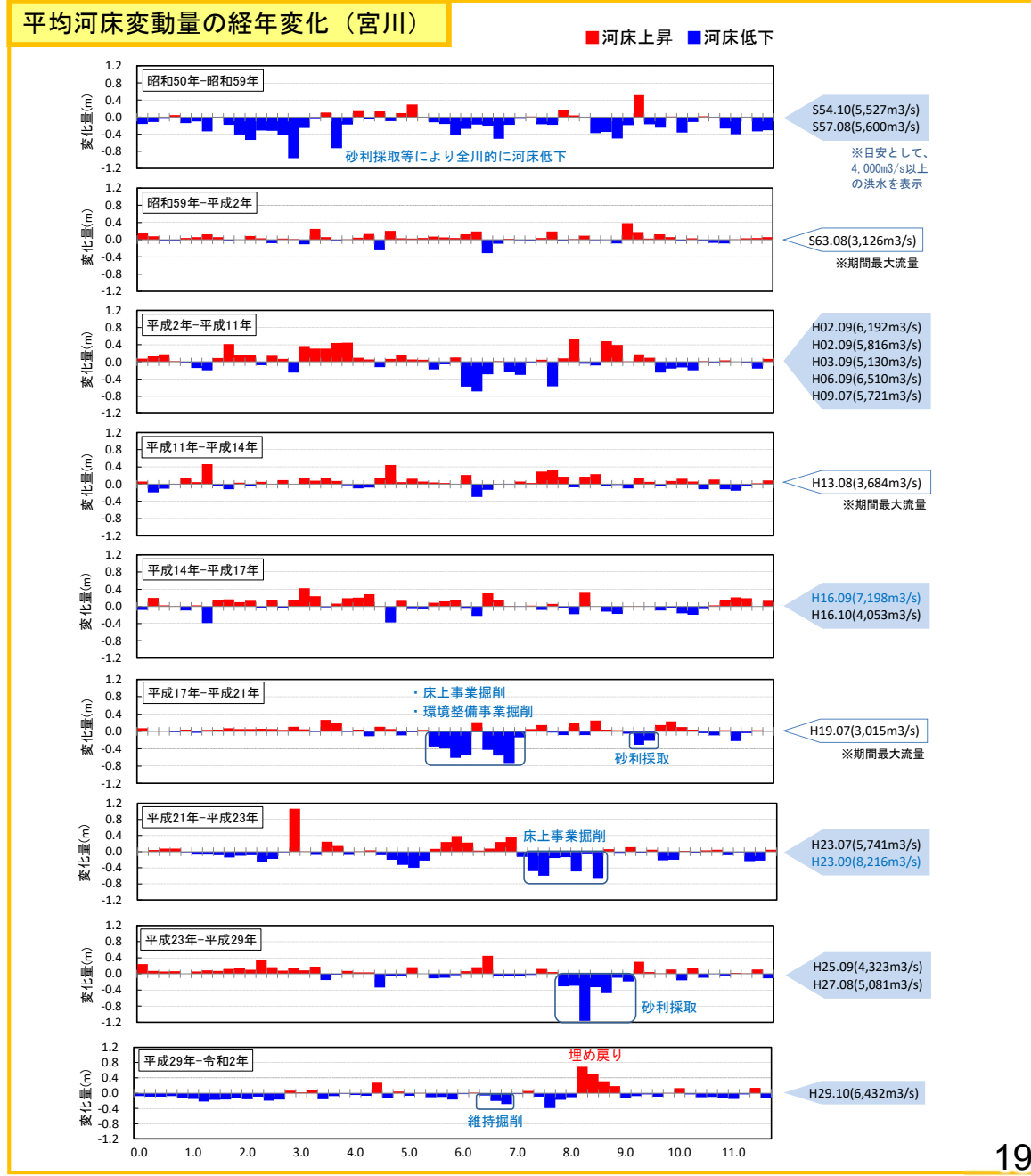
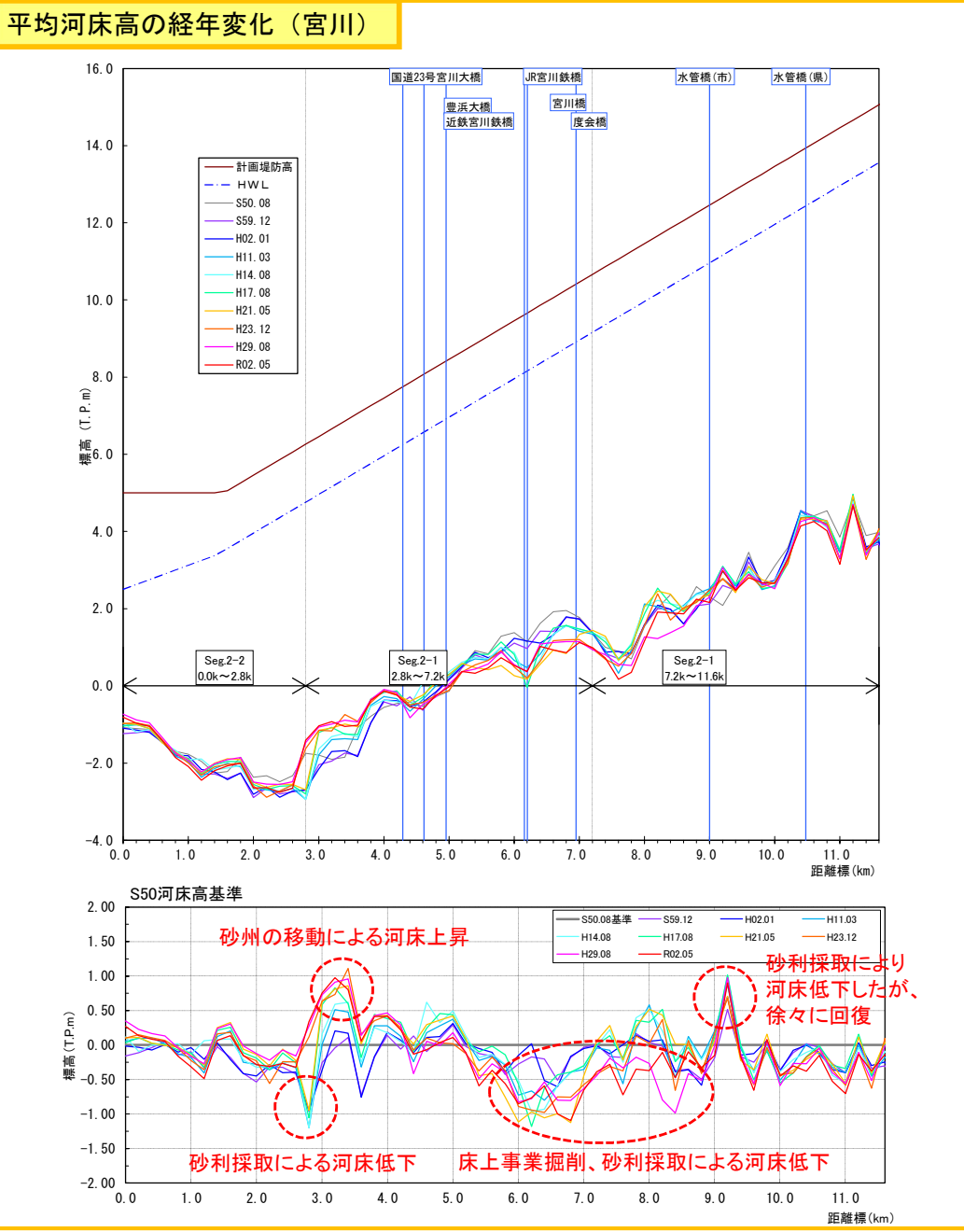
□ 必要流量(水質)

— 正常流量

17

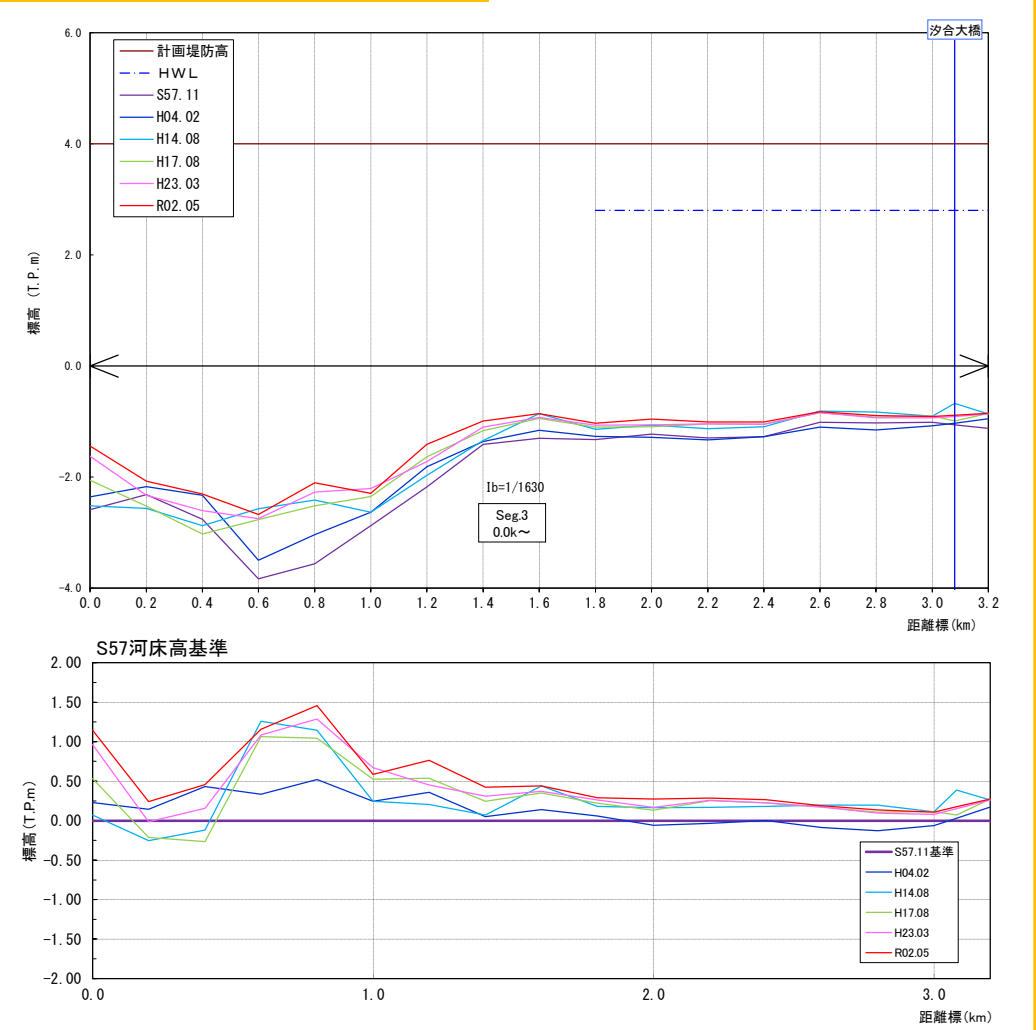
⑥総合的な土砂管理

- 宮川では、砂利採取や床上浸水対策特別緊急事業等による河道掘削が実施されており、それによる河床低下が見られる。
- また、3.0k上流では、経年的な砂州の移動による河床上昇が見られる。

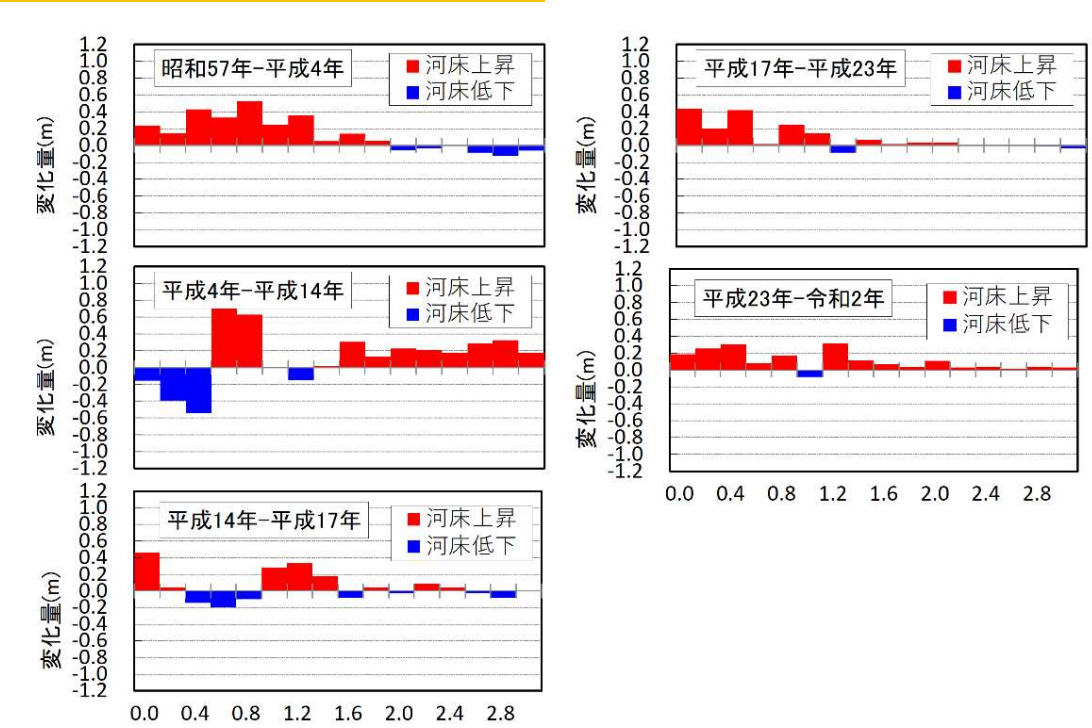


○ 五十鈴川では、全区間で堆積傾向が見られるが、流下能力は十分に確保されており、治水上支障となっていない。

平均河床高の経年変化 (五十鈴川)

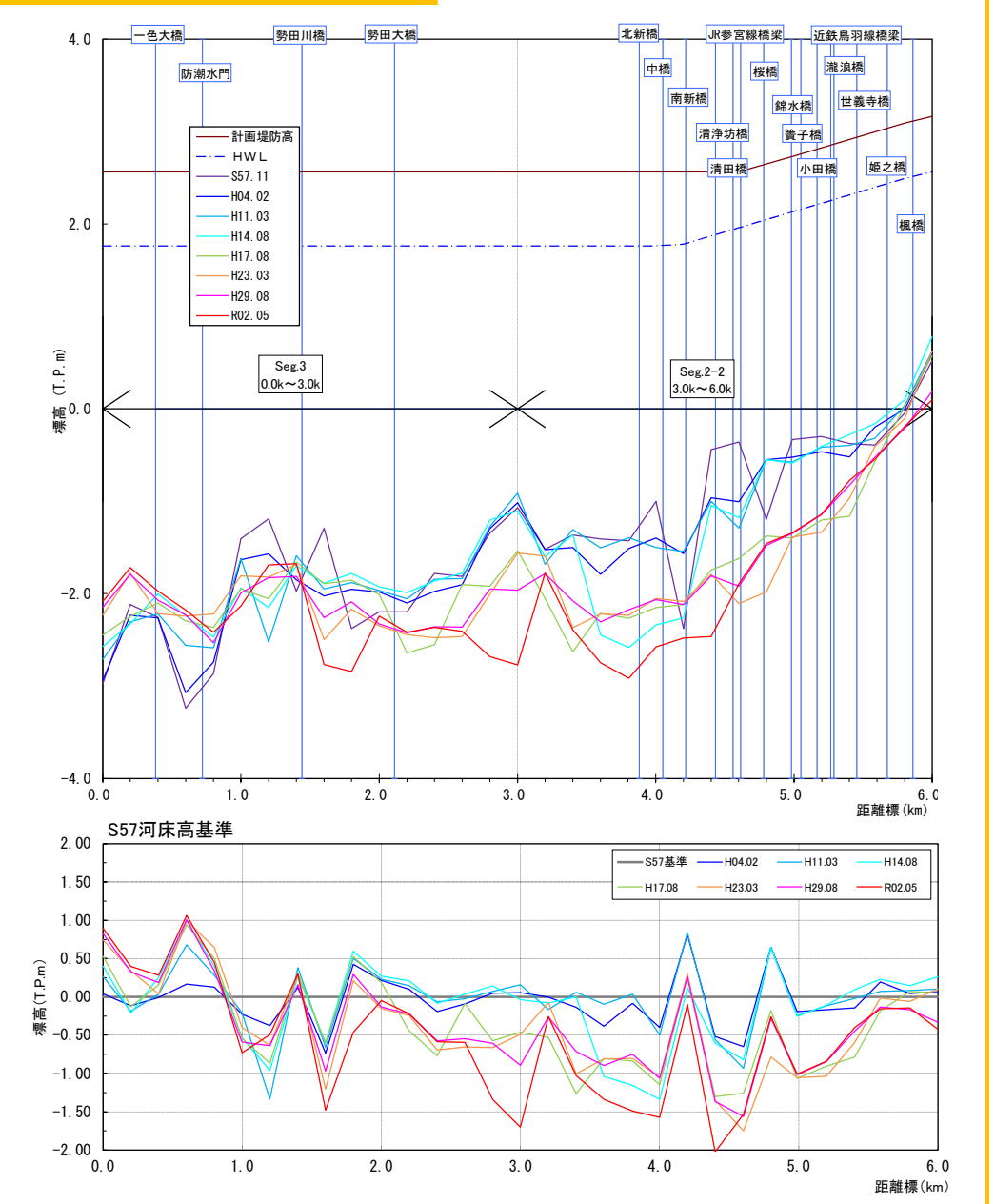


平均河床変動量の経年変化 (五十鈴川)

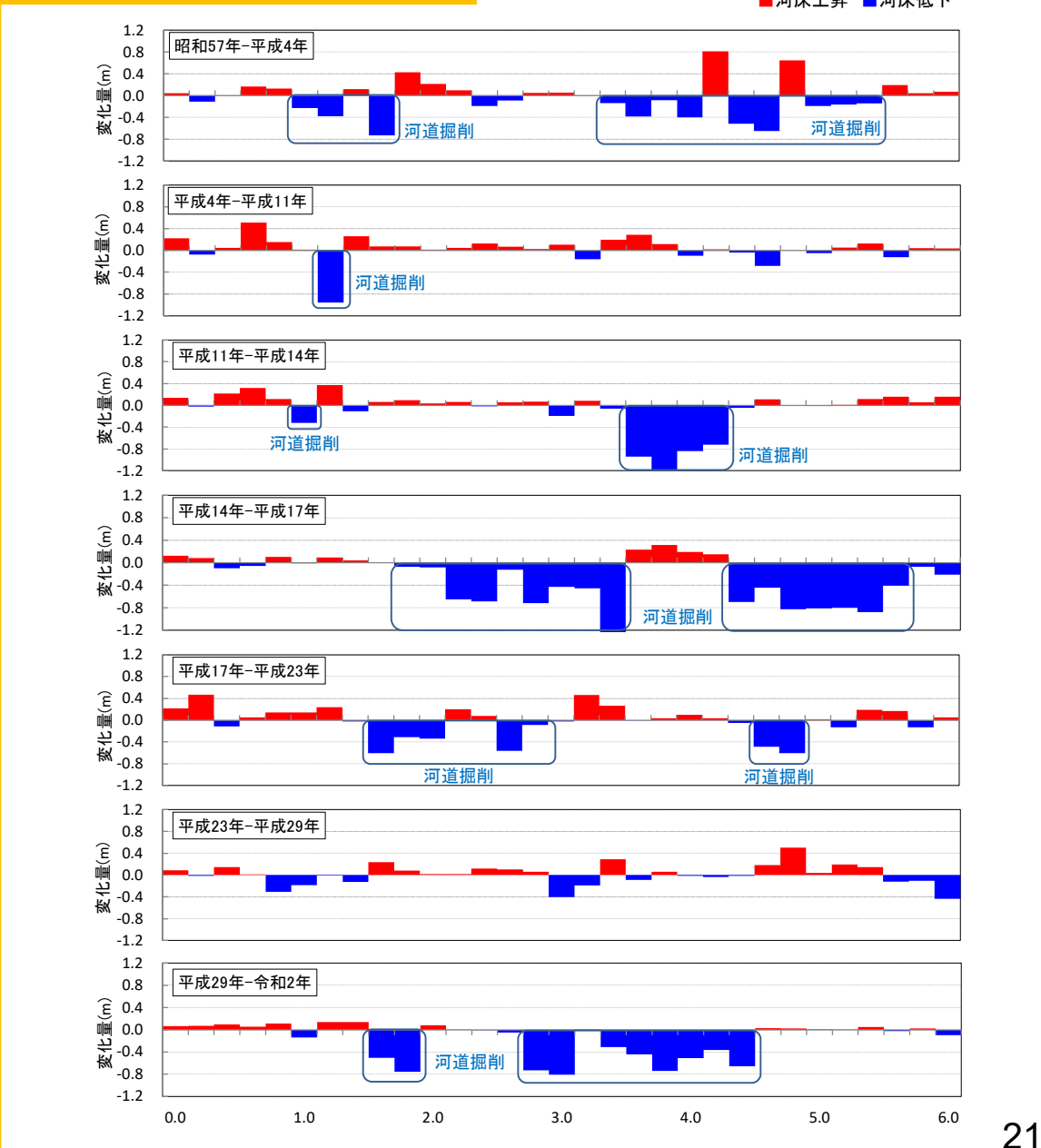


○ 勢田川では、全区間で河道掘削が実施されており、河床変動量が大きい。

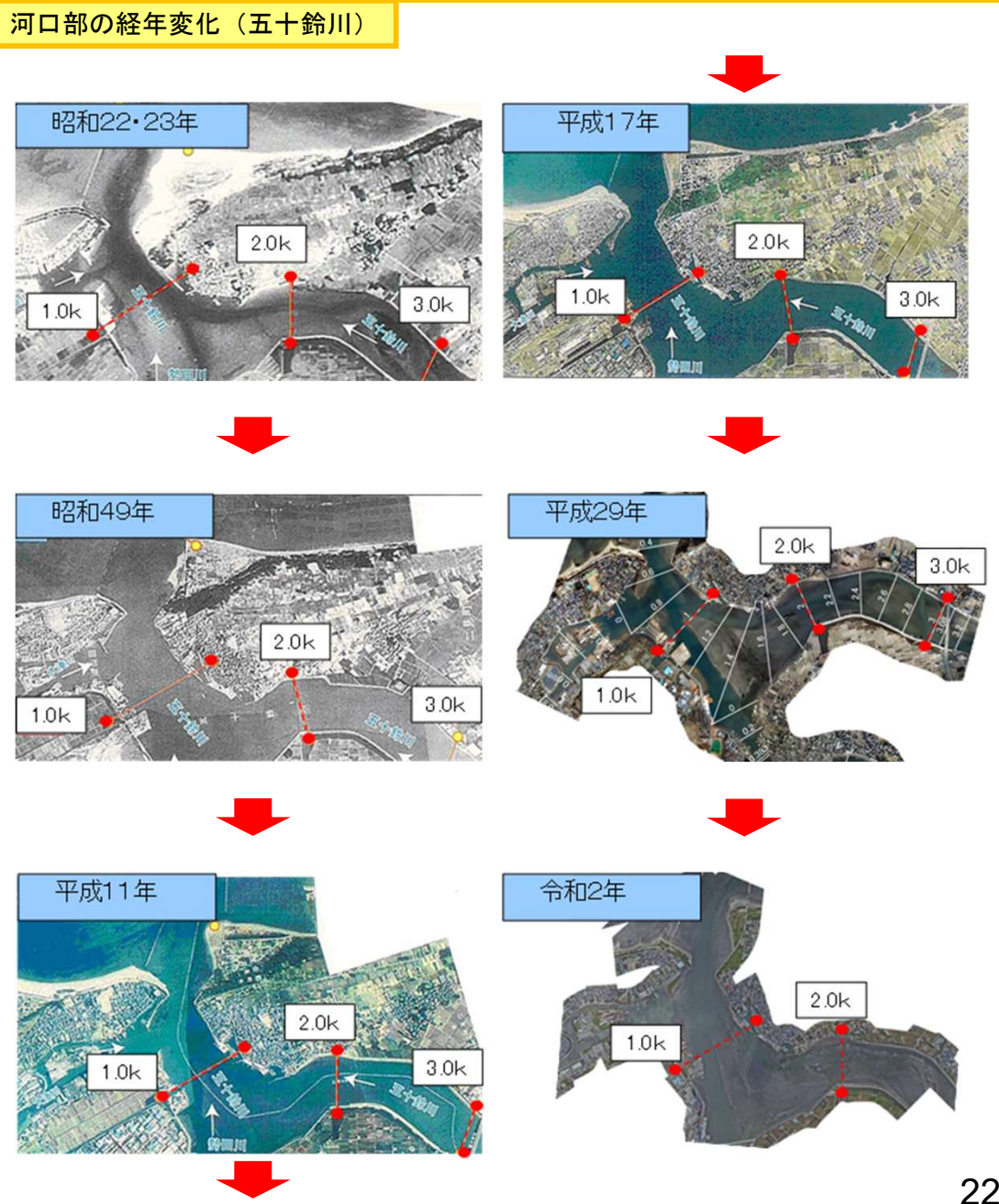
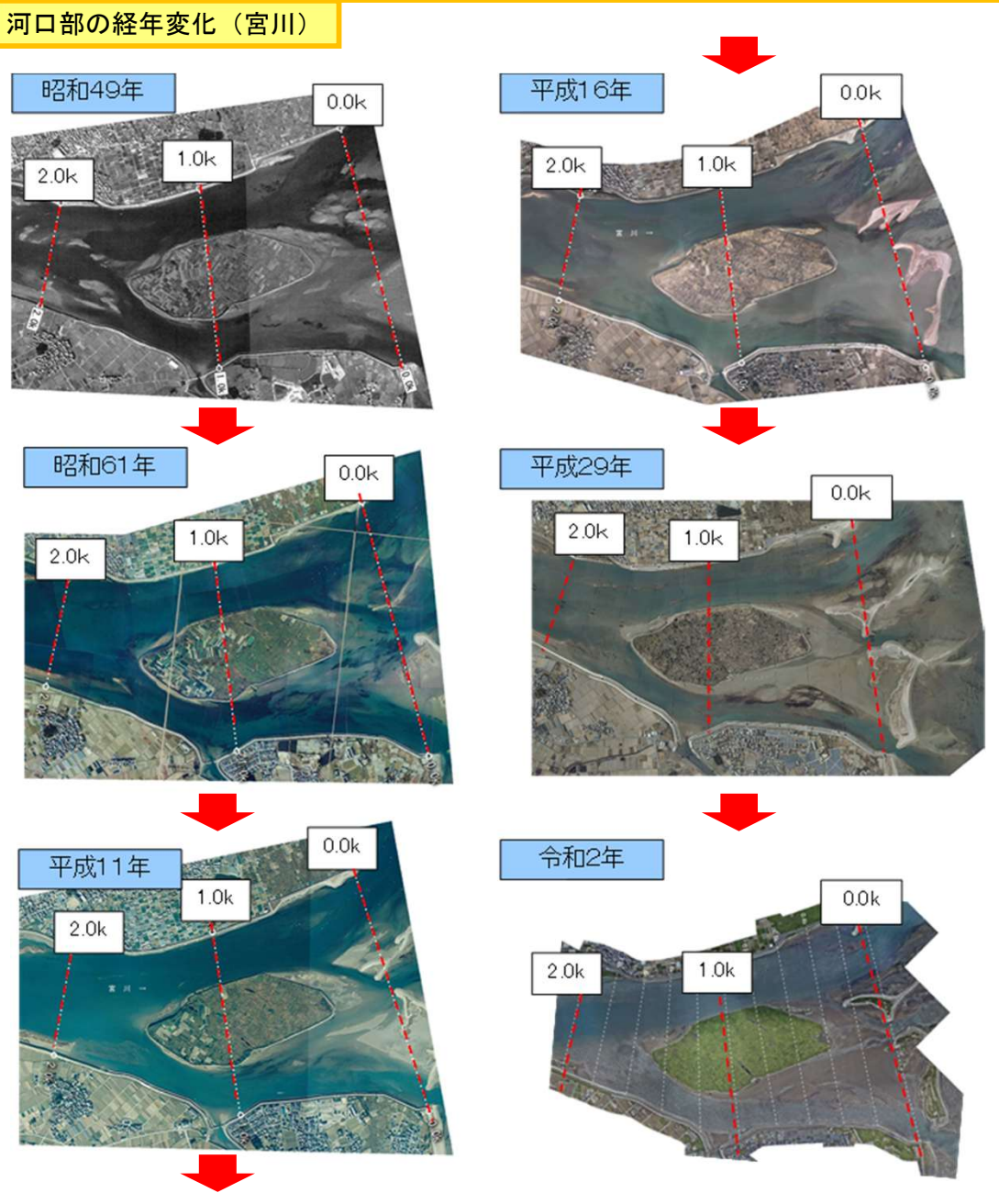
平均河床高の経年変化 (勢田川)



平均河床変動量の経年変化 (勢田川)



- 宮川では、河口部の中州において、近年やや堆積傾向が見られるものの、河口閉塞は生じていない。
- 五十鈴川では、宮川と同様に、河口閉塞は生じていない。



総合的な土砂管理 海岸領域の状況

- 五十鈴川の河口に位置する宇治山田港海岸では、近年、突堤整備や養浜等による侵食対策、護岸・防波堤の改良等による地震・津波対策が進められているが、新たな海岸汀線の後退は確認されていない。
- 宮川左岸の海岸汀線に著しい変化は見られない。

海岸部の経年変化

出典：国土地理院 年度別空中写真

昭和36年(1961年)撮影



平成20年(2008年)撮影



令和2年(2020年)撮影



出典：三重県HP



宇治山田港海岸(二見地区)の整備事例

⑦流域治水の推進

- 平成29年10月洪水(台風第21号)では、宮川下流域で、年間降水量の約 1/4～1/3 の雨量を記録し、勢田川流域では観測史上最大となる累積雨量 584mmを記録し、満潮と台風による高潮・大雨のピークがほぼ同時に発生した影響もあり、広範囲で浸水被害が発生した。
- 流域全体で、関係機関があらゆる施策を総動員して浸水被害軽減 に向けた取り組みを実施するため、伊勢市及び三重県、国が一堂に会し「勢田川流域等浸水対策協議会」を平成30年1月26日に設立した。
- 本協議会にて「勢田川流域等浸水対策実行計画」をとりまとめ、浸水被害軽減のためのハード対策として、河川整備や下水道整備等を、ソフト対策としての確な避難誘導のための防災教育の強化等に連携して取り組むものとしている。

勢田川流域等浸水対策協議会

目的：国、県、市が浸水被害を軽減するソフト・ハード対策の取組を一体的に推進するため、連携・調整等を図る。

組織：市) 伊勢市（危機管理部、産業観光部、都市整備部、上下水道部）
県) 三重県（県土整備部、農林水産部、防災対策部及び出先事務所等）
国) 三重河川国道事務所

設置：平成30年1月26日

浸水対策実行計画の見直し方針(気候変動への対応)
(第12回協議会: 令和7年3月)

